

兵 | 医 | 広 | 報

2020
WINTER
vol. 249

特集

兵医で体現する

文武

BUN BURYO DO

両道





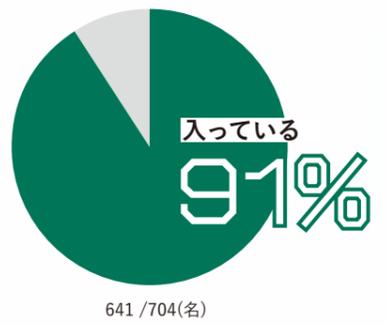
CLUB PICTURE BOOK & INTERVIEW

DATA

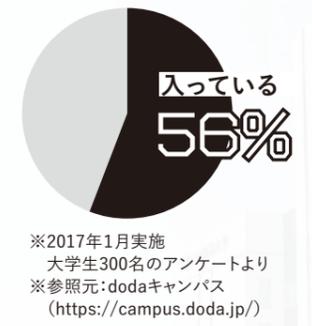
本気で打ち込む兵医大生の部活事情

部活動に入っている生徒の割合は？

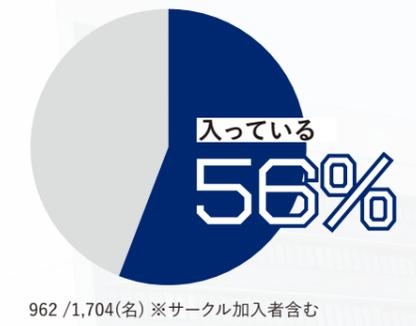
／兵庫医科大学／



／全国平均／



／兵庫医療大学／



医療系の学生が参加する大会は？

医学部の学生が目標とする大会には「西日本医科学生総合体育大会(西医体)」があります。西医体は、西日本のすべての医学部が参加する医学生のためのスポーツの祭典で、1949年に奈良県立医科大学と和歌山県立医科大学が主幹校となり、学生の発案・運営によって始まりました。当初は、7大学が参加し、7種目の競技で競い合いました。以来、そ

の伝統は現在に至るまで引き継がれ、第71回目となる2019年度の大会には西日本の44大学が参加し、21競技まで広がりました。また、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の学生は、近畿医歯薬大会や関西医療系リーグなど医療系の学生が競う大会に出場し、優勝を目指しています。もちろん、総合大学の学生チームと対戦することもあります。

最近の優勝を獲得した主な大会は？

第71回
西日本医科学生総合体育大会
女子大回転
兵庫医科大学
競技スキー部

第71回
西日本医科学生総合体育大会
**女子4×400m
タイムレース決勝**
兵庫医科大学
陸上競技部

2019年 フレンズ杯
女子公式戦
兵庫医療大学
バスケットボール部

第71回
西日本医科学生総合体育大会
女子スーパーG
兵庫医科大学
競技スキー部

第12回西日本医科学生
アーチェリー競技大会
男女混合団体
兵庫医科大学
アーチェリー部

2019年
仲良しオープン卓球大会
混合2S1D
団体戦2部
兵庫医療大学
卓球部

第12回西日本医科学生
アーチェリー競技大会
女子総合個人
兵庫医科大学
アーチェリー部

第34回全日本医科学生
アーチェリー競技大会
女子ハーフ
兵庫医科大学
アーチェリー部

2019年
さわらぎオープン春季大会
D級リーグ
**ミックス
ダブルス**
兵庫医療大学
バドミントン部

兵医で体現する

文武

BUN BURYODO

両道

勉学のみならず、学生同士の切磋琢磨、教職員との交流などを通じ、豊かな人間形成が図られる大学生活。

中でも部活動は「体力」「精神力」「忍耐力」を身につけることを目的とし、部全体が目標に向かって一丸となって取り組むことで、学年を超えた信頼関係を築くことができます。

その達成感と絆は、卒業後も続き、多くのOB・OGが後輩の育成をサポートしています。勉学と部活動の“文武両道”は決して容易ではありませんが、一步一步精進する姿勢は、確実に兵医の学生たちの糧となっているのです。

本特集では、“文武両道”を貫きたゆめめ努力を続ける学生たちの姿に迫ります。

アーチェリー部

「明るく楽しく、文武両道」をモットーに懸命に練習しています。



合気道部

部員一同、昇級、昇段に向けて日々稽古に励んでいます。



アメリカンフットボール部

アメフトするなら大学でしょ!興味のある方はぜひアメフト部へ!



競技スキー部

スキーは個人競技ですが、部員みんなで協力しながら一生懸命練習しています!



柔道部

楽しく体を動かすことを目的に、週2回仲良く練習しています。



バスケットボール部

バスケットボール部は部活と勉強のメリハリをしっかりと行い、楽しい学生生活を過ごしています!



バドミントン部

初心者から経験者まで全員が楽しめるような部活動です!



準硬式野球部

準硬式野球部です。一部昇格をめざして日々頑張っています!



硬式テニス部

初心者から経験者まで和気あいあいと活動しています!入部お待ちしております!



サッカー部

熱く、楽しくサッカーをしています。勉強と部活の両立も頑張っています!



剣道部

練習日は、月・水・土曜日。経験者も初心者も日々楽しく稽古をしています。



硬式庭球部

学校から徒歩5分にある兵庫医科大学専用のコートで楽しく練習しています。



ゴルフ部

専属のコーチがいるので初心者の方もどんどん上達します!



サッカー部

西医体優勝を目標に、サッカーを楽しみながら日々練習に励んでいます。



準硬式野球部

兵庫医科大学準硬式野球部です!放課後にみんなで仲良く元気いっぱい野球を楽しんでいます!



卓球部

勉強と両立して活動中!初心者から経験者まで幅広く在籍しています。



軽音楽部

バンドだからできること、あなただけのステージがあります!



JAZZバンド部

学祭での演奏はもちろん、兵庫医科大学など外部でも演奏する機会がたくさんあり、みんなで仲良く音楽を楽しんでいます!



卓球部

部員全員が目標に向けて日々練習に励んでいます。



軟式テニス部

男女全員が大会で良い成績を残せるように練習に励んでいます。



バスケットボール部

全員が真剣にバスケットボールと向き合い切磋琢磨しています。



バドミントン部

部員のほぼ全員が初心者ですが、男女一緒に仲良く練習しています!



バレーボール部

大会に向けて全員がうまくなるよう日々練習しています。



兵庫医療大学

HYOGO UNIVERSITY OF HEALTH SCIENCES

部 活 動

CLUB

ヨット部

自然とともにある奥深いスポーツです。一緒に楽しみましょう!!



ラグビー部

“One more push”というスローガンを掲げ、チーム一丸となって頑張っています。



陸上競技部

記録を目指す人、軽く運動したい人、どんな人でも楽しめる部活です!



ワンダーフォーゲル部

六甲山、立山など様々な山を登っています。きれいな景色を楽しみましょう!



水泳部

週2回の練習で各部員が自分のペースで目標達成に尽力しています!



写真部

現在活動休止中です。



室内楽団

個性豊かな私たちが一緒にここだけでしかできない演奏をしましょう!



美術部

部員が芸術を介しながら交流し、自分のペースで創作活動をしています!



軽音楽部

経験者・初心者に関わらず、ライブに向けて日々練習に取り組んでいます。



ダンス部

仲間と音と会話。深まる絆。みんなで輝ける。楽しいと思った時が1番カッコいい。それがダンス部。



HCME (英語部)

留学生交流や英会話レッスンを通して英語力向上をめざしています。



家庭科部

手芸をメインで活動しています。学祭では白衣を着たクマを製作し販売しました。



マジック研究部

週1回活動しています。学祭でのショーは毎年好評をいただいています。



ボランティア部 ~ with you ~

病棟での本の貸し出しを中心に学年をこえて活動しています。



PICTURE BOOK



バスケットボールサークル

上級生から下級生まで楽しくバスケットをしています。初心者の方も大歓迎。



ダンスサークル

初心者、経験者大歓迎です!入れば君もDANCING STAR!



剣技サークル

月曜日と金曜日に剣道とフェンシングをしています。初心者大歓迎!!



ソフトテニスサークル

初心者から経験者まで仲良く楽しく活動しています!



アウトドアサークル

みんなで遊びに行ったり、ボランティア活動したりしています。



漫画研究サークル

毎週木曜日、同じ趣味の仲間と楽しく活動しています。



写真サークル

初心者から本格派までさまざまな写真好きが集まっています。



医療研究サークル

医療研究サークルでは、興味のあることを調べて展示しています。



書道花道茶道サークル

初心者歓迎!!月に1度、主に華道のお稽古をしています。



室内楽団サークル

定期演奏会や海祭などに向けて楽しく練習しています。



手話サークル

毎週月曜に活動中!新歓や海祭では「手話歌」を発表しています!



ソフトボールサークル

少数精鋭。人数は少ないですが、学年、学部問わず仲が良いです。



バレーボールサークル

経験者も未経験者も大歓迎です!いつも楽しく活動しています!



ボーイ他職種連携学生ネットワーク

ポートアイランドと丹波篠山で健康支援活動を行っています!!



INTERVIEW

部活動への取り組み方について、学生に話を聞きました。

ヨット部

平野 裕樹さん

Hirano Yuuki

兵庫医科大学 医学部医学科 第4年次生

先輩から受け継いだ 精神を後輩へ

— 大学で部活動をしようと思ったきっかけは何ですか
もともと高校でヨット部に入っていて、新歓で見学に行ったところ、先輩方が優しく迎えてくれ、雰囲気も良かったので入部しました。

— 普段はどのように活動をしていますか
今は13人で、基本的には毎週土・日曜に練習しています。西宮のヨットハーバーで、船を組み立ててから海に出ます。整備や修理をすることもあります。

— 部活動での目標を教えてください
西医体での総合優勝を目指していて、去年は470級で優勝、総合で3位。今年は470級で3位という結果でした。今は自分たちの代の引退後を考えて、後輩育成に力を入れています。ヨットでは後ろに乗る方が舵取りの重要な役割を担うのですが、まだ少し頼りないので心配で…。先輩方に優しく指導していただいたので、下級生にもしっかりとバトンを渡したいです。

— 部活動と学業はどのように両立していますか
試験の日程と、大会のスケジュールが前もってわかっているので、できるだけ計画的に取り組むよう心がけています。試験前には部活を休みたいと思うこともありますが、西医体で勝ちたいので、やるときはやると割り切って、片方のことは忘れて集中します。

— 部活動をやっていてよかったことは何ですか
みんなと一つの目標に向かって努力することの意義は大きいと思います。天候やシーズンによって厳しい日もあり部活はハードなのですが、練習や大会を通して精神的にも強くなりますし、ヨットが好きなので頑張っています。



CLUBPHOTO



風にセイルをフィットさせ、揚力進むヨット。風が強い時は大変だが、その分速く走る楽しさがあるという。

CLUBPHOTO



年間5回ほど大会があり、今年は優勝1回、他もベスト4以上の常連となっている。

授業や実習と離れた もう一つの居場所

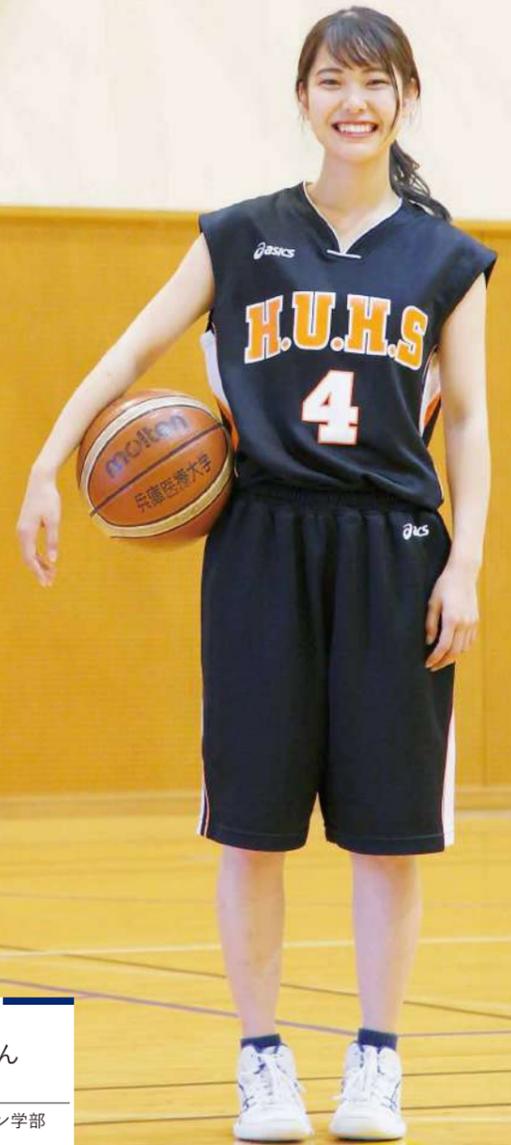
— 大学で部活動をしようと思ったきっかけは何ですか
体を動かすことを続けたかったため、中学・高校と経験のあったバスケット部へ。サークルと迷いましたが、大会に向かってみんなで努力する部活に惹かれました。

— 部活動と学業はどのように両立していますか
部活は大変ではあるのですが、メンバーのことが大好きなので、一緒に過ごすことが勉強の息抜きになっています。先輩もわざわざ実習の合間に顔を出してくれるほどで、授業や実習と離れたもう一つの居場所があってよかったなと思います。

— 部活動をやっていてよかったことは何ですか
部活のメンバーは、学年も学部もさまざまなので、他の学部の学生と情報交換ができたり、同じ学部の先輩に実習先の病院やテストの話が聞けたり、同期と励まし合ったりと、交友関係や視野が広がりました。

— 部活動を通して成長したと思うことは何ですか
キャプテンとして練習メニューや出場メンバーを決めたり、多い時で男女合わせて30人ほどの大会・交通手段・ホテルの手配をしたりするのは、自由にできるからこそ責任が伴うことを強く実感しました。

— 将来の夢は何ですか
部活でケガが多かったので、ケア・予防なども指導していける理学療法士になりたいです。



バスケットボール部

金広 千咲さん

Kanehiro Chisaki

兵庫医療大学 リハビリテーション学部
理学療法学科 第3年次生

CONTENTS

- 01 特集1
兵医で体現する文武両道
- 08 特集2
2020年 年頭の言葉
～新たな年を迎えて～
- 11 NEWS & TOPICS
 - ・「2019年度大学院中間発表会ポスターセッション」を開催
 - ・手術支援ロボット「ダビンチ」を用いた手術症例が500症例に到達
 - ・「ボーアイ4大学総合防災訓練」を実施
 - ・白血病治療薬「キムリア」の実施施設に認定
 - ・第12回 兵庫医療大学 大学祭「海鳥祭」を開催
 - ・第48回 兵庫医科大学 大学祭「醫聖祭」を開催
 - ・グローバルに活躍できる人材育成を目的に「国際学術シンポジウム」を開催
 - ・2019年度「ホームカミングデイ」&「海鳥会(同窓会)懇親会」を開催
 - ・産婦人科における分娩の取り扱いを休止
 - ・将来的な新病院棟の建設に向けて「駐車場棟」「デッキ棟」(いずれも仮称)の建設工事を開始
 - ・「2019年度学修動向調査」の結果を公表
 - ・「JAF×ボーアイ4大学・クリーン作戦」を実施
 - ・兵庫医科大学後援会「2019年度 秋期教員・保護者懇談会」を開催
 - ・男性保健師の教員が教える「はじめてパパの育児講座」を開催
 - ・「働き方改革」と「管理職の役割」について考えるセミナーを開催
 - ・2020年度 兵庫医科大学 医学部入学定員を4名増員
- 18 チームの力
抗菌薬適正使用支援チーム
知ってる?兵庫医科大学
「明るく、力強く」代々歌い継がれる兵庫医科大学の校歌
- 19 卒業生INTERVIEW
自身の就活の経験を後輩へ キャリア支援で「兵庫医療大ブランド」を築く
有限会社フレンド 常務取締役 瀬迫 貴士さん
(兵庫医療大学 2013年卒)
- 21 HYO-i LAB -研究紹介-
“痛み”の正体を追い求め神経伝導の定説を塗り替える発見へ
兵庫医療大学 薬学部 医療薬学科 助教 神田 浩里
法人からのお知らせ
- 23 人事情報
- 24 表彰・受賞など/助成金状況/募金状況
- 25 主な行事予定(2月~4月)



本法人の未来に新たなステージを

学校法人兵庫医科大学 理事長 ^{たしろ} 太城 ^{ちから} 力良

明けましておめでとうございます。新春を寿ぎ謹んでお慶び申し上げます。

2018年10月に理事長に就任してから、2度目の新年を迎えました。就任直後には文部科学省が医学部入試に関する性別問題を提起し、すべての私立医科大学に調査が入りましたが、兵庫医科大学は適正な運用を行っていたため、入試の不正性を問われる指摘事項はありませんでした。

しかし、私立大学のコンプライアンスのあり方に社会全体が注目したことで、今年4月1日に「私立学校法」が改正施行されることになりました。改正のおもな主旨は、「法人理事・監事の個人ごとの職務・責任の明確化」や「情報公開の充実」などですが、本法人の体制・運営は、すでにこれらに十分配慮された内容となっています。この改正により、学校法人の根本規則である寄附行為の文言についても一部変更が必要となったのですが、学祖である森村茂樹が本法人創設時に作った寄附行為を改めて読み直したところ、同族支配の排除項目など、約半世紀も前に時代を先取りした事項が含まれており、「社会の福祉への奉仕」「人間への深い愛」「人間への幅の広い科学的理解」という建学の精神を具現化するために自らを律する姿勢、崇高な精神に強く感銘を受けました。

さて、本法人は2022年に創立50周年を迎えます。21世紀に即した医学・医療の持続的な展開とそれらを担い上げる高質な医療人の育成を使命とした医療総合大学をめざす本法人の道標として、2018年4月からスタートさせた「第三次中期事業計画」はこの年を最終年度としたもので、現在も計画に沿った取り組みがなされているところです。この事業計画の中で大きな目標として掲げているのが、「西宮キャンパスにおける新病院棟の建設計画」です。今年1月には、駐車場棟および保険薬

局を含むデッキ棟の工事を開始し、その後は現在の立体駐車場と9号館の解体、そしていよいよ新病院棟の着工と続くこととなります。

また、2022年4月に兵庫医科大学と兵庫医療大学とを統合することをめざして準備を進めます。これにより、医学部・附属病院、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部間の連携が強化され、教育や研究内容の質が高まることにより、本法人の未来に新たなステージが生まれると考えています。

一方で、少子化に伴う受験者数の減少や私学助成金の減少、医療分野においては薬剤師をはじめとした医療・介護人材の不足や、高額な医薬品・医療材料の使用頻度の増加など、本法人の置かれている経営環境が非常に厳しいことは否めません。

新病院棟の建設を実現するためには健全な財政基盤が不可欠です。また、そのためには教職員全員が自らの労働の質を高め、ムリ・ムダ・ムラを省いた業務改善による生産性の向上が欠かせません。「日本人の労働の質は時間の割に中身が薄い」「ダラダラと働いている」「働かされている感が強い」などと言われますが、本法人の構成員はそんなことがないと感じています。仕事の成果を高めるにはワークライフバランスが重要になりますので、我々経営幹部が「時間は有限の経営資源」と捉え、従来の業務プロセスを見直すことで、今後も教職員一人ひとりが学習する喜び、仕事をする喜びを存分に感じられる環境づくりに邁進したいと思っています。

本年も、学校法人兵庫医科大学のさらなる発展に向けて皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。



未来へ向けた改革を

兵庫医科大学 学長 野口 光一

皆様、明けましておめでとうございます。2020年(令和2年)が皆様にとって、そして、兵庫医科大学にとって素晴らしい1年となることを祈っております。

昨年は平成から令和へと時代が変わり、日本国内において新時代をお祝いするイベントが数多くありましたが、兵庫医科大学にとっても一昨年から引き続き重要な変化の年でありました。教育研究棟も使用開始から2年目となり、いろいろな調整を経て、運用は軌道に乗ってきたと思います。そのような中、旧校舎の取り壊しや土壌整備が完了し、教育研究棟2期工事、および新たな駐車場棟などの建設工事が始まりました。

2020年における兵庫医科大学の大きな課題は、「医学教育分野別認証評価の受審」です。本学では、これまで医学教育に関する多くのプログラムやカリキュラム、評価システムなどを改革してまいりましたが、今回の受審は「国際基準に対応した医

学教育を行っているかどうか」が評価されるものであり、まさに全学を挙げての取り組みとなるでしょう。私としては、受審のために行われる今回の大きな改革が、単に認証評価のためだけではなく、実質的に兵庫医科大学の卒前・卒後教育に関する質の向上につながる形にしたいと考えております。

私が学長として最も重要な業務と認識しているのは「未来へ向けた改革」です。本学が高い評価を得る大学として存続するためには、財政面での裏づけとともに、教育・研究・診療のすべてのシステムを時代に合わせて改革しなければなりません。長年にわたる慣習や風土を変えていく勇気と努力、そして「兵庫医科大学を良くする」という構成員全体の意思が何よりも重要です。兵庫医科大学が地域社会と共生し総合医育機関として高い評価を受け、学び働く構成員が満足感と誇りを持てる大学をめざしていきますので、皆様のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



変化に負けず進化をめざす

兵庫医療大学 学長 藤岡 宏幸

新年、明けましておめでとうございます。旧年中は、兵庫医療大学の教育・研究・大学運営などに、多大なご指導、ご支援を賜り、本当にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

昨年は、天皇陛下がご即位され、元号が平成から令和に変わり、社会全体が大きな時代の節目と変化を感じる年でした。本学は、平成19年に兵庫医科大学の兄弟校として開学して以来、兵庫医科大学との緊密な連携を図りながら順調に発展してきました。

しかし、私立大学を取り巻く状況は、日々、厳しさを増してきています。少子化に伴う受験人口数の減少、競合する医療系学部の新設、自己点検を通じた教育の質の保証、研究や社会活動を通じた地域社会への貢献など多くの課題があります。また、大学入学試験では、大学入試センター試験から大学入学共通テストへの変革により、英語、および数学、国語の試験方法などのさま

ざまな変更点について、予断を許さない状況です。

「変化する厳しい環境に生き残ることができるのは、最も強いものではなく、その環境に適合して進化することができたものである」という言葉もあります。平成から令和の時代になり、周辺状況が刻々と変化する時代において、本学が生き残り、発展するためには、教職員全員が進化しなければなりません。

本学は、開学20周年でめざすべき姿「HUHS Vision 20」において「医療総合大学としての教学基盤の確立」と「次代を担う中核的医療人育成」を掲げています。大きく変化していく社会の中で、本学卒業生が中核的医療人として活躍できるように、基礎力や自主性を培う教学基盤を確立したいと考えています。

本年も引き続き、ご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



“ボトムアップ”の改革を

兵庫医科大学病院 病院長 阪上 雅史

皆様、明けましておめでとうございます。昨年4月に病院長に就任して以来、新病院棟の建設に向かって全職員一丸となって頑張ってきました。その結果、病床稼働率や入院外来単価なども上昇し、経営的にも2026年の新病院棟開院が視野に入ってきました。これは、経営層からの“トップダウン”での掛け声のもと全職員が努力した結果であります。

一方、メディカルスタッフを中心とした業務改善チームからは、逆に“ボトムアップ”の提案もありました。具体的には「①クリニカルパスによる医療の標準化とDPCの検討(医療の効率化)」「②返品件数を少なくするため薬剤処方の方針についての検討」「③挨拶と笑顔」の3点です。①と②は、日々業務に携わっている者だからこそ気づくことができた改善点であり、まさに現場の視点がなければわからなかった点でした。また、③は日常生活の基本ですが、提案によって改めて重要性を認識させられました。思えば約30

年前、私が初めてアメリカへ留学した時、アメリカ人がニコッと笑いながら「Good morning!」で朝を始め、何か些細なことでも「Thank you」、帰宅時は「Good bye」「See you tomorrow」、週末は「Have a nice weekend!」といった挨拶で終えることを目の当たりにし、いたく感心させられました。多民族社会で協調して生きて行く知恵かもしれませんが、やはり挨拶をされた方は気持ち良くなります。患者さんにとって明るい病院、職員にとって明るい職場をめざす上でこれほど大切なことはありません。

病院長は全体像を俯瞰して経営を考えるからこそ、現場からの距離があるものです。今後、現場を見据えたトップダウンを行うためにも、職員からのボトムアップによる提案を歓迎し、私も職員と一緒に改革に取り組んで参りますので、2020年はぜひ兵庫医科大学病院にご注目ください。最後になりましたが、皆様のご多幸とご健勝を心よりお祈り申し上げます。



地域医療を担う大学病院として

兵庫医科大学 ささやま医療センター 病院長 片山 覚

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり、今年注力していく取り組みとして、「地域医療を担う大学病院としての卒前・卒後教育」について紹介させていただきます。

まず、医学生に対する卒前教育ですが、昨年11月から地域医療の臨床実習期間が2週間になりました。その間、医学生は初診患者さんの予診を担当し、タブレット端末でAI問診を行い、病歴聴取やバイタルサインのチェック、トリアージ判定などを行います。また、継続外来では高血圧や糖尿病など頻度の高い慢性疾患の診療を、健診外来では、血圧・身体測定とともにPHR(パーソナル・ヘルス・レコード)を使った自己管理の指導、腹囲・内臓脂肪の測定、成人期の体重変化との関係の調査を課題としています。さらに、地域住民を対象とした「健康長寿教室」では、医学生が参加者へのレクチャーを担当しています。

一方、卒後教育では、昨年4月から総合診療科で初期研修

医の外来研修を始めました。初期臨床研修の2年目に行われる地域医療研修では、研修医が一人で診察を開始し、必要に応じて適切な医師に相談。また、入院患者さんの担当医となり、退院調整を経て訪問診療の同行までを経験します。さらに、問診や身体診察を重視し、時間経過を使った診療を経験させるために、外来でのフォローアップまですべて自分で担当します。その他、頻度の高い慢性疾患の継続外来や健診外来、救急外来の研修も担当します。尚、これらの研修中は研修医のみで診療を終えることなく、指導医が診察後のカルテをチェックしており、週に1回、地域総合医療学に所属する多様な専門性を持った医師が研修医と一緒に症例検討会を行っています。

学生は2週間、研修医は2カ月と短期間ですが、地域医療を担う大学病院として、包括的で一貫した卒前卒後教育をさらに充実させていきますので、本年もよろしくお願い申し上げます。

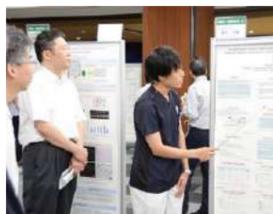


「2019年度大学院中間発表会 ポスターセッション」を開催

2019年10月3日、大学院生の研究の促進・展開と交流を図ることを目的に「中間発表会ポスターセッション」を開催しました。大学院3年次生38名がこれまでの研究成果や学位論文の準備状況等を英語でポスターにまとめて発表し、教員と活発な議論を行いました。発表会は大学院生が研究進捗を振り返るとも貴重な時間となり、研究分野の垣根を越えて互いの研究について理解を深める良い交流の場となりました。



ポスターセッションの様子



研究成果を説明する大学院生



手術支援ロボット 「ダビンチ」を用いた 手術症例が500症例に到達

兵庫医科大学病院では、患者さんの身体への負担が少ない内視鏡手術支援ロボット「ダビンチXi」による手術を積極的に実施しています。ダビンチは、熟練した外科医でも困難な繊細な動きを可能にした支援ロボットで、外科医がロボットアームを操作して手術を行います。



ダビンチ手術の様子

2012年から手術を行ってきまして、2019年10月8日には、各診療科でのダビンチ手術症例が500症例に達しました。今後もチーム一丸となって手術手技の向上に努めていきます。

■兵庫医科大学病院におけるダビンチ手術実績

診療科	対象疾患	手術実績
泌尿器科	前立腺がん	351
	腎がん	56
	腎盂尿管移行部狭窄症	3
上部消化管外科	胃がん	75
下部消化管外科	直腸がん	19
産科婦人科	良性子宮腫瘍	4
呼吸器外科	肺がん	7
	縦隔腫瘍	1
	合計	516

(2019年11月1日現在)



第12回 兵庫医療大学 大学祭「海鳥祭」を開催 次世代への架け橋～平成をジャンプ～

2019年10月13日、14日の2日間、第12回兵庫医療大学 大学祭「海鳥祭」を開催しました。平成から令和へと時代が変わるなかで、若い世代への期待を込めて「次世代への架け橋～平成をジャンプ～」をテーマに開催しました。台風の接近で開催が危ぶまれましたが、1日目の開催時間を午後からにすることで2日間開催することができました。

メインステージではクラブ・サークルによるパフォーマンスや、アーティストLIVE、お笑いLIVE、ヒーローショーを実施し、観客から大きな歓声があがりました。華やかな衣装に身を包んだ学生が登場したMs.&Mr.コンテストでは、全て10円玉で投票が行われ、集まったお金は日本赤十字社に寄付しました。また、今年度目覚しい活躍を見せた課外活動団体の表彰式も実施し、バスケットボール部、卓球部、軽音楽部が受賞しました。学部体験イベントや模擬店などには子ども連れの方や高校生も多数来場され、盛況のうちに終了しました。



多くの方に来場いただいた海鳥祭



メインステージで行われたJAZZバンド部の演奏



模擬店で来場者をおもてなし



兵庫医科大学の学びを体験



学生たちが、参加者の方にやさしく説明



課外活動奨励賞を受賞した部活動
(左から：軽音楽部、卓球部、バスケットボール部)



「ポーアイ4大学総合 防災訓練」を実施 ～災害時に備えて大学間で 連携を強化～

2019年10月11日、神戸学院大学にて「ポーアイ4大学総合防災訓練」(ポーアイ4大学連携推進センター主催)が実施され、兵庫医科大学、神戸学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学の学生、教職員や、地域住民の方々が参加しました。訓練は、消火器使用体験、地震体験車「ゆれるん」体験、地震・火災避難訓練などが行われ、兵庫医科大学は心肺蘇生・AED使用体験ブースを設置。災害時に役立つ情報や備えを再確認する良い機会となりました。



さまざまな災害を想定して実施した訓練



白血病治療薬「キムリア」 の実施施設に認定

兵庫医科大学病院は、2019年10月21日、難治性の白血病をCAR-T療法によって治療する点滴「キムリア」(提供：ノバルティスファーマ株式会社)の実施施設に認定されました。



点滴で投与されるキムリア

2019年12月13日現在、本認定を受けている施設は全国で8施設(兵庫医科大学病院、北海道大学病院、東北大学病院、東京医科歯科大学医学部附属病院、京都大学医学部附属病院、岡山大学病院、九州大学病院、国立成育医療研究センター)です。

「キムリア」とはCAR-T療法のための注射製剤です。CAR-T療法は、患者さんの血液から免疫細胞のひとつであるT細胞を取り出して、がん細胞を標的として攻撃するために設計されたCARの遺伝子を導入し、CARを作ることができるCAR-T細胞を作ります。これを患者さんの体内に戻せるように製造された製品がキムリアです。



10/2

2019年度 学校法人兵庫医科大学 医療人育成研修センター認定看護師教育課程(手術看護分野)の入学式を執り行いました。



10/14

海鳥祭(大学祭)開催にあわせ、看護学部教員による「兵庫県看護協会まちの保健室 神戸東支部出前隊「兵庫医療大学」を開催し、多くの方にご参加いただきました。



10/15

竹林・畑・中川・福島法律事務所の小西 華子弁護士を講師としてお招きして、教職員を対象に「ハラスメントに関する講演会」を開催しました。



10/25

兵庫医科大学では2020年度に医学教育分野別認証評価を受審することから、東京慈恵会医科大学 教育センター長 福島 統教授を招いて講習会を開催しました。





第48回 兵庫医科大学 大学祭「^{いせいさい}醫聖祭」を開催 The beginning of a new era～レイワから始まるストーリー～

2019年11月2日、3日の2日間に第48回兵庫医科大学 大学祭「醫聖祭」を開催しました。

今回のスローガンは「The beginning of a new era～レイワから始まるストーリー～」。このスローガンには令和最初という節目に醫聖祭が新たな時代の幕開けとなるようにという意味が込められています。今年度も前年度に引き続き、元ラグビー日本代表の角日出夫氏による医学講演会や医療器具展示といった医科大学ならではの企画から、豪華景品が盛り沢山のビンゴ大会、お笑い芸人によるライブなどといったさまざまな年代の方々に楽しんでいただけるようなイベントを実施。多くの人と盛り上がることができ、新たな時代の幕開けとなる素晴らしい大学祭となりました。

＼学生のコメント／

第48回醫聖祭実行委員長 小山 佳輝

大学祭実行委員長を務めさせていただき、非常に素晴らしい経験ができました。無事に大学祭を終えることができたのは、先生方や後援会、緑樹会の方々をはじめ、大学祭を盛り上げるために協力して下さった大学関係者の方々のおかげです。心より御礼申し上げます。



各部活動が模擬店で食べ物を提供



大盛況のビンゴ大会



軽音楽部のライブ



みんなで楽しむフットサル



ダンス部の集合写真



グローバルに活躍できる人材育成を目的に 「国際学術シンポジウム」を開催

2019年10月8日、学術協定校である天津医科大学と「国際学術シンポジウム」を開催しました。このシンポジウムは、グローバルに活躍できる専門職の育成や、両大学の学術情報の交換を目的に毎年開催しているもので、今年度で13回目を迎えました。

今回のテーマは“Cardiovascular disease (循環器疾患)”。天津医科大学からお招きしたDr. Zhelong XU (学部長、生理学・病態生理学教授)とDr. Tong LIU (心房細動センター長)、兵庫医科大学の坂口太一主任教授(心臓血管外科)と朝倉正紀教授(循環器・腎透析内科)が講演しました。学部学生、大学院生、教職員総勢130名を超える聴衆が参加し、各講演者の医療・研究技術に関する症例を交えた説明に質問が多く寄せられ、シンポジウムは大盛況となりました。



満員となったシンポジウム会場



天津医科大学の先生方との記念写真



2019年度「ホームカミングデイ」& 「^{かいきょうかい}海梟会(同窓会)懇親会」を開催 ～懐かしい恩師や友人たちと再会～

2019年10月13日、兵庫医療大学の卒業生を対象とした「ホームカミングデイ」および「海梟会(同窓会)」を開催しました。今年で9回目を迎えたホームカミングデイでは、教職員合わせて50名が兵庫医療大学に集いました。茶話会形式だった昨年度までと趣向を変え、各学部・学科の卒業生による講演「仕事とプライベート、どう両立させている?!」を実施。現役の社会人ならではの視点で、仕事とプライベート、それぞれにどう向き合っているかを語ってもらいました。

その後、キャンパス内ラウンジに会場を移し、「海梟会(同窓会)懇親会」を開催。会場を近隣ホテルから学内に移したこともあり、同日開催の海梟祭(大学祭)に訪れた卒業生が飛び入りで参加するなど、恩師や友人との再会に話が弾む賑やかな会となりました。



ホームカミングデイで卒業生が講演



懐かしい再会に話が弾む懇親会



参加者全員で撮影した記念写真



11/6

2020年度入職内定者を対象に、「看護職員内定者交流会」をホテルヒューイット甲子園にて開催し、内定者117名の参加がありました。



11/14

「神戸市長と神戸市内の大学長との懇談会 特別フォーラム」が開催され、藤岡学長が出席。「大学改革・活性化で実現する神戸創生」をテーマに講演が行われ、各校と意見交換を行いました。



11/15～16

質の高い臨床研究を実施することのできる人材育成を目的に、「臨床研究ワークショップ アドバンスコース」を初開催。参加者は解析・論文化に集中して取り組みました。



11/16

医学部第4年次生を対象に「令和元年度 白衣授与式」を挙。学生たちは白衣に袖を通し、臨床実習に向けて気を引き締めていました。





産婦人科における 分娩の取り扱いを休止

ささやま医療センターは、2020年3月31日をもって、産婦人科における分娩の取り扱いを休止する方向で丹波篠山市と協議を進めています。

安心・安全なお産を提供するためには、24時間365日、いつでも病院に駆けつけ、診療ができる複数の医師体制が必須です。そのような中で、当センターにおいても何とか分娩を継続できないかと医師確保に努め、何度も検討を重ねてきましたが、残念ながら今回の結論に至りました。

今後、分娩予定日が2020年3月11日(水)以降になる方については、ご本人の意向を確認させていただいた上で、近隣の病院やクリニックなど分娩を扱う施設へ紹介させていただく予定です*。なお、分娩前後の健康管理および上記以外の産婦人科診療については、2020年4月以降も従来どおり継続し、患者さんに寄り添い、地域に根ざした医療を引き続き提供できるように取り組んでいきます。

※3月31日までの分娩については責任を持って診察します。



将来的な新病院棟の建設に向けて 「駐車場棟」「デッキ棟」(いずれも仮称)の 建設工事を開始

将来的な新病院棟の建設に向けて、2020年1月から12月(予定)まで、西宮キャンパスにおいて「駐車場棟」「デッキ棟」(※いずれも仮称)の建設工事をを行います。それぞれ、おもな特徴は次のとおりです。

【駐車場棟】

駐車台数が100台以上増える(480台→591台)ことで、周辺道路の混雑緩和が期待できます。また、津波避難ビルとしての役割も担うことで地域に貢献します。

【デッキ棟】

患者さんの利便性を高めるため、デッキ棟の2階に「保険調剤薬局」をオープン予定。また、デッキ棟が完成することで、2017年11月に竣工した「教育研究棟」の工事がすべて完了し、学生や教職員が2階の玄関からメインフロアに出入りできるようになります。

今回の工事が完了すれば、従来利用していた立体駐車場を取り壊し、その跡地に新病院棟を建設する予定です。



駐車場とデッキ棟の完成イメージ

■工事予定地(西宮キャンパス)



「2019年度学修動向調査」の結果を公表 ～データで見えてくる学生生活の実態～

2019年7月から8月にかけて全学年の学生を対象に実施した「学修動向調査」の結果を公表しました。これは、学生の学習状況や学生生活の実態について把握することを目的としたものです。

調査結果から「大学内の学習場所」として66%の学生がラーニングスクエア、図書館、学年講義室などを利用していることがわかりました。特に第1学年次の76%が大学内で学習していることから、2018年4月に本格稼働した教育研究棟内の学習環境整備・向上が大学として重要となっています。

また、第1学年次を対象とした設問で71%の学生が「受験科目になかった教科に関して授業についていくのが難しい」と感じたことがあったと回答していることが明らかになり、入学後の学習支援の重要性が増しています。

各種教育関連の調査結果は、医学教育プログラムの改善や学修環境整備などに活用していきます。

■大学内で勉強している学生の割合(学年別)



■大学内のラーニングスクエア、図書館、学年講義室などで勉強している学生の割合



■受験科目になかった教科の勉強で、ついていけないと感じたことがある学生の割合



「JAF×ポアアイ4大学・クリーン作戦」を実施 ～学生と教職員がポートアイランドをきれいに～

2019年11月14日、ポートアイランドにある4大学*が力を合せて清掃活動を行う「JAF×ポアアイ4大学・クリーン作戦」が実施されました。これは、例年11月に開催される神戸マラソンのフィニッシュエリアとなるポートアイランドに多くの方が来場されることから、2016年よりJAF兵庫支部と4大学のコラボ企画として始まった取り組みで、ポートライナー「みなとじま」駅から「市民広場」駅までの沿線を中心に清掃を行うものです。今年度は、神戸市環境局中央事務所の方にもご協力いただき、4大学の学生・教職員と、JAF会員のみなさま、地域のみなさまなど合計276名の方が参加。神戸マラソンに参加するランナーや応援に来た方々に、ごみのないポートアイランドで気持ちよく過ごしていただけるよう清掃を行いました。

※神戸学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、兵庫医療大学



クリーン作戦の開催挨拶



参加者で撮った集合写真



学生たちも積極的に清掃



11/19

再生医療等技術を用いる治療や臨床研究を適正に推進するため、基礎知識の習得をめざし「第1回再生医療等研修会」を開催しました。



11/20

ストレスをコントロールし、レジリエンス(回復力)を高めることができるよう教職員を対象に「セルフケアセミナー」を実施。物ごとのとらえ方や感情のコントロールについて学びました。



11/25

小児科病棟にて、「おりがみ劇場」を実施。参加した子どもたちは、おりがみで作られたキャラクターが登場するお芝居を見て楽しんでいました。



11/27

オクタホールにて「臨時学生総会」を開催。今年度の事業報告や、学生会執行部と大学行事実行委員会の新三役立候補者の立会演説会を行いました。





兵庫医科大学後援会「2019年度 秋期教員・保護者懇談会」を開催

2019年11月2日、兵庫医科大学後援会「秋期教員・保護者懇談会」を開催し、過去最多の205名の保護者にご参加いただきました。2つの会場を中継して行い、野口学長から「兵庫医科大学の課題と展望」、阪上病院長から「兵庫医科大学在籍24年間からみた学生像」と題して講演が行われました。



懇談会の様子

その後行われた懇親会にも多数の保護者にご参加いただき、教員と交流を深めて盛会のうちに終了しました。



男性保健師の教員が教える「はじめてパパの育児講座」を開催

2019年11月2日と9日に、兵庫医療大学にて「はじめてパパの育児講座」を開催し、両日合せて18名のパパとママにご参加いただきました。

1日目は「子どもの成長発達に合わせ、どのような関わり方が必要なのか」を座学とあそびで楽しみながら学んでいただき、2日目は「実際にどうすれば寝かしつけがうまくいくのか」「夫婦で子育てをしていくために大切なことは何か」について学んでいただきました。



遊びを交えて楽しく学ぶパパたち

両日ともにパパとママの笑いが絶えない楽しい講座となりました。



“働き方改革”と“管理職の役割”について考えるセミナーを開催

2019年11月18日に、役員・管理職を対象としたセミナー「誤解されやすいダイバーシティ経営：働き方改革と管理職の役割」を開催しました。中央大学ビジネススクールの佐藤 博樹教授を迎え、マネジメントの基本や、働き方改革の目的と進め方について学びました。



熱心に聴講する管理職

働き方改革は「時間意識の高い働き方への転換」が目的であり、有限な時間の中で業務を遂行する能力開発に繋がること、多様な価値観に触れる機会の創造が変化対応行動の促進に結びつくことなど、参加した管理職は熱心に聴講していました。



2020年度 兵庫医科大学 医学部入学定員を4名増員

兵庫医科大学は、2020年度 兵庫医科大学 医学部の入学定員について、文部科学省より4名の増員申請が認められました。これに伴い、2020年度の一般入学試験A4科目型の入学定員を「一般枠」約78名から約80名に、「兵庫県推薦枠」を3名から5名に変更します。

■各入試制度の入学定員

一般公募制推薦入学試験	約12名
地域指定制推薦入学試験	5名以内
一般入学試験 A 4科目型	一般枠： 約80名 兵庫県推薦枠： 5名
一般入学試験 B 高大接続型	約10名

12/2
兵庫医科大学にて「第47回実験動物慰霊祭」を挙行し、動物実験に携わる教職員および学生が参列。実験動物の御霊に哀悼の意を捧げました。



12/15
兵庫医療大学にて、一般入試に焦点を当てた入試対策講座を開催。高校生、保護者の方など併せて353名の方にご参加いただきました。



チームの力

法人内のチームの動きをご紹介します

抗菌薬適正使用支援チーム ～多職種チームでケア～

細菌を壊したり、増えるのを抑えたりする薬のことを指す「抗菌薬」。感染症の治療において患者さんの予後を改善するためには、感染症を的確に診断し、適切な抗菌薬を投与することが重要です。なぜなら、抗菌薬は適切に投与しないと治療効果が得られないだけでなく、副作用が生じたり、薬剤耐性菌[※]が発生したりする恐れがあるからです。

そこで兵庫医科大学病院では、そうした状況を改善するために抗菌薬の適正使用を支援する「抗菌薬適正使用支援チーム(AST)」を2019年9月に発足させました。

このチームは、医師や薬剤師、臨床検査技師、看護師などが所属し、感染症の治療の効果を上げ、耐性菌を減らすことで抗菌薬の適正使用を支援しています。その活動を通して、患者さんのより早い回復を目指しているのです。また、病院内での薬剤耐性菌の監視、抗菌薬使用量の調査など、病院全体での管理を行います。

その他にも、カンファレンスを定期的に行ったり、院内スタッフの教育を徹底したりするなど病院全体での抗菌薬の適正使用に取り組んでいます。

※薬剤耐性菌…抗菌薬が効かない菌のこと

- ～構成メンバー～
- 【専任】
- ・医師 2名(感染症専門医1名、インフェクションコントロールドクター2名)
 - ・薬剤師 1名(抗菌薬化学療法認定薬剤師1名)
- 【兼任】
- ・薬剤師 1名
 - ・臨床検査技師 2名
 - ・看護師 2名(認定看護師1名)



多職種で支援を行うチームのメンバー

知ってる？ 兵庫医科大学

学校法人 兵庫医科大学の“すごい”や“隠れた魅力”をご紹介します

「明るく、力強く」代々歌い継がれる兵庫医科大学の校歌

ピアノのやさしい伴奏から始まる兵庫医科大学の「校歌」。兵庫医科大学の在学生や卒業生の方は、校歌はいったい誰によって作られたのかご存じでしょうか？今回は、少し校歌について紐解いてみたいと思います。

兵庫医科大学の校歌が制定されたのは、今から46年前の1974年2月20日。同志社大学の第15代総長で中世英米文学が専門の上野 直蔵氏によって作詞されました。楽譜には「明るく、力強く」という指示があり、上野氏の学生に対する想いが込められています。ちなみに、上野氏は1972年から1984年まで学校法人兵庫医科大学の理事、評議員を務めたことでも知られています。また、作曲したのは、当

時、神戸女学院大学の教授を務めていた川澄 健一氏。1969年まで大阪の帝塚山学院で音楽を教え、作曲した校歌、社歌、市町歌は300を超すとされているので、ご存じの方もいるのではないでしょうか。

このコーナーで、馴染みのある校歌のことを知り、懐かしい気持ちになった方は、ぜひ大学ホームページから聴いてみてください。

▶兵庫医科大学 校歌

https://www.hyo-med.ac.jp/guide/outline/school_song.html

一、たなびく兵庫の 春霞
若い命の 朝しずか
われらは学が 朝しずか
くすしのわざ 朝しずか
ここにあり
兵庫医科大学

二、くれゆく六甲の 山紅葉
燃ゆる想いを ひそめつつ
眞理の光の 悠遠や
ここにあり
兵庫医科大学

三、苦しみ病める 人たちの
まことの救いと なるために
希望は高し 若人よ
ここにあり
兵庫医科大学

作詞者 上野直蔵氏
作曲者 川澄健一氏